

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		ScatKids日進				公表日		令和8年 4月 15日	
		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点			
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	8		スペースは広い。	適切			
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	8		適切	適切			
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	8		特性や状況に応じて活用されている。	環境整備を積極的に行う			
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	8		静/動の部屋分けをしている。 床の張替えを行っている。 こまめな清掃を行っている。	環境整備を積極的に行う			
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	8		状況に応じて別室を使用している。 パーテーションを使用し落ち着ける空間づくりをしている。	環境整備を積極的に行う			
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。	8		毎月の職員会議、都度のミーティングで行っている。				
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	8		職員会議にて行っている。	面談を行い、保護者の意向をしっかりと聞き取る。			
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	8		ミーティングや職員会議、個別面談で意見を伝えられる。 必要に応じて意見を言える環境になっている。	年2回以上の個人面談実施。			
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	7	1		外部評価を取り入れる。			
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	8		ジョブメドレーアカデミーのアカウントが1人ずつに与えられており、いつでも受講できる。外部研修も積極的に受けさせてくれている。 職員会議に合わせて研修も行っている。				
適切な支援	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	8						
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	8		日々の振り返りの中でアセスメントも行っている。 職員同士での意見交換ができ分析の機会が多い。				
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	8		それぞれの児童に必要な支援を日々検討している。				
	14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	8		活動内容を書き出し一覧にし偏らない工夫をしている。 計画書更新後に共有している。				
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	8		研修や職員間の連携を通して確認を行っている。				
	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	8		本人の意思、家庭環境などから支援に必要な項目を設定している。				
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	8		職員の特技やアイデアを話し合い、活動に取り入れている。				

援 の 提 供	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	8		学習プログラムでも筆記、英語、算数など多様に提供している。	
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	8		無理強いせず臨機応変に提供している。	
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	8		毎日行い確認している。	
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	7	1	気付きを共有し業務日誌を書いている。	各人が自分の公休日の業務日誌を確認する。
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	8		毎日記録し、活用している。	各人が自分の公休日の業務日誌を確認する。
	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	8		保護者面談、5領域を踏まえて作成している。	
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせ支援を行っているか。	8		活動、余暇など、児童に分かりやすく設定し、メリハリのある支援を行っている。	
	25	こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	7	1	様々な場面で自己決定出来るよう促している。	自己決定の促し方の研修を行う。
関 係 機 関 や 保 護 者 と の 連 携	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	8		児童発達支援管理責任者、療育責任者が参加している。	
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	8		ケース会議に説教的に参加し、事業所で共有している。	
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	8		学校からのメール確認を行い、都度対応している。	
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	8		相談員のサービスを利用している児童は行っている。	
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	8		要望により行う。	
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	7	1		機会があれば研修を行う。
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。	6	2	積極的に取り組んでいきたい。地域のお祭りに参加し交わりを持っている。可能な範囲で参加している。	計画を立て実行する。
	33	（自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか。	6	2	開催時間などにより難しい。可能な限り参加している。	予め予定を立てた上でシフト調整を行う。
	34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	8		送迎時に少しでも伝えるようにしている。保護者から聞いたことはミーティングで共有し対応している。	
	35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	7	1	行なっているが参加率が低い。	興味のあるような研修を検討し提供する。
	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	8		契約時にお伝えしている。	
	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	8		面談時に行っている。面談時意向を確認し個別支援計画書を作成している。	
	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	8		面談時に行っている。	

保護者への説明等	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	8		規程の面談以外にも希望があれば面談を行っている。電話相談も行っている。	
	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機械を設ける等の支援をしているか。	8		保護者会にて保護者同士の交流場を設けている。	
	41	こどもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	8		苦情があった場合は迅速な事実確認と対応を行っている。	
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	8		ホームページに掲載、はいチーズにて写真提供、送迎時に発信している。	
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	8		周知徹底されている。	
	44	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	8		伝わりやすいコミュニケーション、支援を常に意識している。	
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	8			
非常時等の対応	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	7	1	定期的な研修、防災訓練を行い緊急時に備えている。	シフト調整し職員全員が参加出来るようにする。
	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	8		防災訓練：年2回実施（1階は消防署の方による訓練の実施）	シフト調整し職員全員が参加出来るようにする。
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	8		全職員に周知、発作時の対応も共有されている。	
	49	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	8		分かりやすく共有したい。アレルギー以外の嚥下などに対しても配慮を行っている。	
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	8		日頃から周知されている。	
	51	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	8		契約時にお伝えしている。	
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	8		記録、共有している。 職員間で深く理解しあい、再発防止に繋げたい。	
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	8		虐待防止委員主導で行っている。 セミナー受講、研修を行い虐待防止に努めている。	
54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	8		身体拘束は行いません。		